

小浜西組8区対象住民説明会終了

7月24日(日)の貴船区から始まり、11月27日(日)の白鳥区をもちまして、すべての区の説明会が終わりました。

各区から出た質問および意見等

飛鳥区 平成23年11月19日(土)午後7時30分から 庚申堂にて 14名出席

*** 公共整備については計画の段階であると聞きましたが、詳しく説明してほしい。**

⇒平成25年度から公共整備着工を予定している。平成25年度は実施設計で700万円、26年度から28年度までは各年1億円、29年度は2億円の予算計上を予定している。

*** 飛鳥区で伝建物の対象となる建物がどれだけあるのか。全てが改修の申請をした場合どうなるのか。**

⇒国、県の補助金を受けて改修するため同時期に全て改修することは困難。基本的には優先順位を考慮し先着順となる。

*** 私の家の小屋の木戸をアルミサッシ戸に替えてしまったが罰金があるのか。現状変更は伝建物だけでいいのではないか。**

⇒申請をせず建物を触った場合は5万円の過料が発生する。伝建物以外でも現状変更申請は必要。

*** 市は重伝建を残していこうという思いが見られない。観光を資源としてやっていくなら、『トタン壁ではなく杉板壁にしてほしい』とか積極的に動いてアドバイスしてほしい。**

三丁町の町並みという新しい建物もあり、空き地も多く歯抜けの町並みとなっている状態で重伝建を実施することは遅いと思う。「三味線の音が聞こえる町並み」をキャッチフレーズとしているが、実際はきこえてこない。

⇒市では重伝建事業の取り組みについて粘り強くやっていきたい。



浅間区 平成23年11月26日(土) 午後7時30分から 浅間会館にて 11名出席

*** 私の家は伝建物であるが、急に修理をしないといけない場合はどうなるのか。修理事業決定まで1年半かかるということになればそれまで待てない。又、今後の諸事情により伝建物の解除はできるのか。**

⇒緊急的に修理を要する場合は重伝建の補助を利用するのは困難。自費で応急措置をしていただくか市の景観形成を予算化し、応急的に対応できる。後継者がいない場合や自然災害等によって修理が不可能である場合は解除する場合がある。



*** 自分の家は伝建物ではないので届出は必要ないのではないか。**

⇒ 小浜西組重伝建地区内であれば建物の外観を修理する場合は届け出は必要である。

*** 地区内の公共整備について具体的に説明してほしい。**

⇒ 平成25年度から設計700万円を計上し、26年度～28年度まで整備費として各1億円計上している。来年度、整備について地元の方々と協議していきたい。

白鳥区 平成23年11月27日（日） 午後7時30分 白鳥会館にて 9名出席

*** 将来、車庫を家の前に造りたいが、塀や垣根を設置するスペースがない。そのような場合どうすればよいか？**

⇒ 車が目立たないように戸を付れたり、工夫して下さいと指導とお願いをする。

*** 屋根を直す時、届け出は必要か。規則の瓦を使用しないといけないか。**

⇒ 規模にもよるが基本的には現状変更届けが必要。若狭瓦はなくなっているの、色が考慮してあれば他の物でよい。

*** 2方向避難路の景観形成助成金は始まっているか。**

⇒ 予算化して活用できる。



かしはら
奈良県橿原市今井町（重伝建地区）視察研修実施
平成23年11月20日（日）



選定から18年の今井町を視察して

若狭の語り部 杉崎 康代

当日は並木の公孫樹の黄葉も太陽に輝き爽やかな秋の奈良への研修日となりました。お昼前に「今井まちなみセンター」花藪に到着。館は明治36年の建築で奈良の風情を感じながら、若林会長様より選定前後の経過等、復元模型の前で丁寧な説明を受けました。会員の方々は作務衣姿で迎えて下さったのも趣がありました。なにより平成5年に指定を受けている町だけに、18年間の苦勞が自信に変わり、威厳さえ感じました。その後、町並みをガイドしていただきました。



若林会長の案内を聞く参加者

江戸時代の商人の町の繁栄が随所に残り圧倒されました。やねの煙出し、鬼瓦には棹秤の分銅、桃、水指し等の彫り物が目に留まりました。又、むしこ窓、太格子、駒つなぎ、全て商家の格と財を全面に現し、まさに「店」は「見せる」につながり大金を費やしているように見えました。昼食は重要文化財旧米谷家（金物商）で用意して下さい、釜戸に火を入れ、お茶を沸かし接待して下さいました。ここでは女性グループの和服での温かい

おもてなしを受けました。

最後の見学宅も重要文化財今西家（築年1650年）の惣年寄そうとしよりの筆頭家でした。家に入るなり梁、柱、高さなど殿様が現れてもおかしくない立派な造りでした。

しかし見学しながら小浜のよさが浮かんできました。小浜は南には中世の山城があり、緑繁る後瀬山、北には小浜湾の青い海と自然に囲まれた、心癒される地形の良さがあります。散策していてもどこか懐かしく、心を落ち着かせてくれる城下町なのです。歴史と文化を綾なす丹後街道、巡礼道の良さを見直し、小浜の強みを大切に伸ばせば今井町は選定を受けて18年、小浜は3年ですから、これからも住民の意識を高め、研修と工夫をしていけば必ずや明るい未来があると思った研修でした。「住んでよし、訪れてよし」の小浜を目指したいものです。



町並み保存の先進地 今井町をたずねて

武部 邦雄（鹿島区）

今井町町並み保存会の皆さんの歓迎を受け、早速今井まちなみ交流センター・華薨（はないらか）で今井町の歴史、建造物の説明、重要伝統的建造物群保存地区の選定を受ける前から現在に至る説明等に参加者全員耳を傾けた。

人が住んでいる町、子供たちがいる町、生の今井町を見て、肌で感じ取ってほしいとの若林保存会長のあいさつに今井町に対する熱い思いを感じた。平成5年に重伝建の選定を受け、私たちの町小浜西組の約15年先輩としての経験を話された。選定されてから現在にいたる年月も大事だが、町を二分するほど激論を交わした過程が礎いしづえとなり、大変であったが、大切なことであったとも語られた。

電線などが地中化され、広く見える青空に白壁と重厚な本瓦葺きの商家や、現在生活をされている家並みが調和している。時折、小浜・三丁町の幅くらの道で車とすれ違い、壁際に身を寄せ車の通り過ぎるのを待った。訪れた人のために頭を下げた運転する車の通行に思いやりを感じた。道案内をいただいた保存会長さんは、人が住んでいる町を強調され、写真撮影などを含みプライバシーに対し、かなり気をつけておられたことが印象に残った。



参加者みんなで記念撮影

1,100軒ほどが住む指定地域には60トン～80トンの防火（消火）用水を確保したり、防災設備を保管した住民の憩いと集会所を兼ねた施設をいくつか見かけた。また150本以上の消火器が街角のいたる所に配置されていた。

昼食は旧家の広い座敷で黒膳に

のせた弁当に舌つづみをうち、遠くから汲んで来られた清水をかまどで沸かした熱いお茶をいただきながら、江戸の昔の豪商の建物の風情を堪能した。私たちのためにわざわざ許可をとり、かまどに火をおこしてくれたボランティアの男衆、火の後始末を素手で確認されたのかなと、ふっと思い出す。

保存会長さんの発案で、保存会同士の問題点の話し合いを1時間ほど延長し、質問など討議した。終わりに当協議会から謝辞を述べ、若林保存会長の名残惜しそうな言葉の中、帰路に着いた。

ほぼ予定時刻に無事帰浜した。残すべきものが少なくなったなと語りながら自宅まで歩き、ふと寂しく感じたのも事実だった。



小浜西組町並み協議会からの ●お知らせ●

宝くじ基金のご協力を得て下記の防災関連の物品を購入いたしました。町並み保存資料館に常備しておりますので、地区内の皆様で利用を希望される方は申し出てください。

特にAEDとよばれる機械は、皆様のご家庭でも緊急時に役立つと思います。館内のテレビの所に置いてあります。



プロジェクター・スクリーン付	— 1セット	折りたたみ式リヤカー	————— 1台
DVDレコーダー	————— 1台	ヘルメット	————— 5個
発電機	————— 1台	アルミパイプ伸縮式担架	————— 5台
ワイヤレスアンプ	————— 1台	自動体外式除細動器 (AED)	————— 1台
ワイヤレスマイク	————— 2本	訓練用水消火器	————— 8本
強力ライト付き発電機	————— 1台	訓練用消火器への水入れポンプ	————— 1台
特定省電力トランシーバー	————— 8台	電工ドラム	————— 2個

企画運営部より

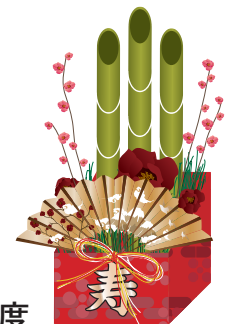
お正月用のお花の生け花教室を行ないます。

日時 平成23年12月26日(月)
午前10時からと午後2時からの2回

講師 澤口妙子先生

費用 盛り花…2,000円程度 おもと 万年青…2,500円程度

申込先 澤口先生まで(53-2327) 申込締切 12月23日



年末年始 町並み保存資料館休館日

平成23年12月27日(火)～平成24年1月3日(火)

